

臨床実技セミナー3 「中医学的鍼灸治療の実際」

テーマ：脳血管障害に対する鍼灸治療の実際－治療効果の再現性

兵頭明（学校法人後藤学園）

植松秀彰（医療法人財団天京会牧田中医センター）

河原保裕（アコール鍼灸治療院）

2008年版人口動態統計によれば、脳血管障害で亡くなった人は約12万6千人、全人口に占める割合は約12%とされており、患者数はその10倍以上とも言われている。高齢化が進む日本にあっては、患者数はたえず増加し続けている。

脳血管障害に対する鍼灸治療については、今までにも多くの報告がなされているが、本実技セミナーでは天津中医薬大学第1付属病院の石学敏名誉院長が中心になって開発した「醒脳開竅法」について紹介する。この治療法をとりあげた理由は、鍼灸師が一定のトレーニングの後に、同システムを活用すると、誰でもほぼ同程度の治療効果を収めることができるからである。この点については第47回全日本鍼灸学会岐阜大会において北海道の禎心会病院のグループが後藤学園と牧田中医センター共催の醒脳開竅法マスターコースでのトレーニング後に、237症例を対象に同等の結果が出せたことを報告している。

醒脳開竅法の特徴

1. 急性期から取り入れることにより回復を促したり、後遺症を軽くすることができる。
2. 回復期から取り入れても一定のADLの向上をはかることができる。
3. トレーニング後に誰でもほぼ同程度の治療効果を収めることができるという再現性がある治療法である。
4. 治療直後に治療効果がでやすいため、患者と術者が効果を確認しながら治療を進めていくことができる。
5. 患者のリハビリにのぞむモチベーションの向上も期待される。
6. 治療直後に治療効果がでやすいため、リハビリとの医療連携がはかりやすい。

以上の特徴をふまえて、急性期、回復期の醒脳開竅法の活かし方、開業鍼灸院での醒脳開竅法の活かし方、工夫等について紹介する。

醒脳開竅法は中国鍼が使えないとできないのではないかと不安を感じている鍼灸師もいるであろう。確かに中国鍼の利点として手技・手法の行いやすさはあるが、適切な鍼の選択を行い適切な手技を行えば、日本鍼でも充分同じ効果を収めることが可能である。本実技セミナーでは、醒脳開竅法の日本バージョンを紹介する。

本治療法を医療機関のみでなく、鍼灸治療院、在宅医療の中でどのように活かすことができるのかを一緒に考えたい。またリハビリテーションとの医療連携により患者のADL、QOLのいっそうの向上・改善がはかれることが期待される。さらに医療費の削減にも貢献しうるものであることを確信している。